

賑岡地区社会福祉協議会広報誌



第15号
令和元年9月1日
発行
賑岡地区社会福祉協議会
会長 飯島 貞夫
(大月市社協内)
電話 23-2001

平成31年度より新会長が就任いたしました

賑岡地区が一体となった地域づくりを推進して、
誰もが安心して暮らしている地域を目指します

賑岡地区社会福祉協議会

会長 飯島 貞夫



賑岡地区住民の皆様には、賑岡地区社協の事業運営に對しまして日頃より格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

賑岡地区社協は区長、公民館長、老人クラブ会長、民生委員児童委員や地域の活動に関わる多くのボランティアの皆様の支援によって活動している団体であります。前子前会長をはじめ歴代役員や地域の皆様のご努力により、市内でも先駆的な地区社協に発展してまいりました。これまでの活動も「安心力ード」への登録や「地域見守りマップ」の取り組み、ふれあいいきいきサロンへの支援、買い物行楽事業等、多くの実績を残していると感じております。また昨年度には「つながり支え

賑岡地区社協役員

(会長) 飯島貞夫 / (顧問) 箭子 熙代司 / (副会長) 武藤啓喜、小 俣芳江、森嶋政夫、小俣好三 / (常 任理事) 林博之、吉岡幸弘 / (理事) 清水秀幸、後藤春子、小碓仁、小 俣保春、小林直美、小泉吉廣、井 上和久、小俣春樹、矢頭秀樹、佐 藤勝男、増井進 / (監事) 小俣建 三、渡邊久子 / (評議員) 川野和 枝、平井秀治、矢ノ倉清、井上里 江、矢頭和子、井上喜和子、中野 友子、佐藤君代、矢頭照子、鈴木 龍子、池川直伯、逸村仁美、佐藤 佳伸

※順不同

賑岡地区住民の皆様におかれましては、本会の趣旨や目的、計画の目標などをご理解いただき、支え合いや助け合いの心を大切にして、「すべての人たちが自分らしく過ごすことのできる地域」の実現に向けて、ご協力いただけたら幸いです。

地区社協って？

住民自身が、自分たちで生活する地域の困りごと(福祉課題、生活課題)を主体的にとらえ、課題解決に向けて、住民一人ひとりが主体的に地域ぐるみで取り組む活動組織です。地域には、区会や自治会、民生委員児童委員、公民館、防災会、消防団、老人クラブ、育成会、ボランティア組織など、色々な目的をもった組織があります。地区社協活動の推進は、このような地域に既存する組織を基盤として、お互いが協力し合う中で、地域ぐるみで進められます。

賑岡地区社協では、

住民相互のささげあいや
たすけあいを推進しています！

最近の少子高齢化や生活様式の変化に伴って、それぞれの方の良さと(強み)を活かしながら地域の中でつながっていく事で住民一人ひとりの生きがいとなり、暮らしを豊かにする地域を創っていく社会。「地域共生社会」の実現が叫ばれています。この社会を実現するには「支えあい・助け合い」のつながりは必要不可欠なものです。賑岡町にこれまであったつながりを維持、さらには強化していくため賑岡地区社協では様々な事業を展開しています。

買い物行楽事業

買い物行楽事業は賑岡地区社協が実施する自家用車などがなく、公共交通機関の利用も困難な高齢者や障がい者を対象として毎月一回、買い物支援をするものです。店舗に向向き、自分の目で商品を選び購入する楽しさや外出する楽しみを目的としています。また、運転手も地域の方にボランティアでお願いして実施しています。

8月の実施日には3名の方に利用していただきました。利用者たちはお互い連絡を取り合い、集合場所へ集まっていたいただきます。今回は少し遠出をして河口湖方面まで足を運んでみました。途中、河口湖湖畔に立ち寄り、季節の花や景色などを楽しみながらの買い物。利用者からは「楽しかった」、「良い気分転換になった。」などの言葉が聞けました。この活動を通して、それぞれの方に役割が生まれ、買い物をする楽しみとともに生きがいに繋がっています。



赤い羽根共同募金運動がはじまります

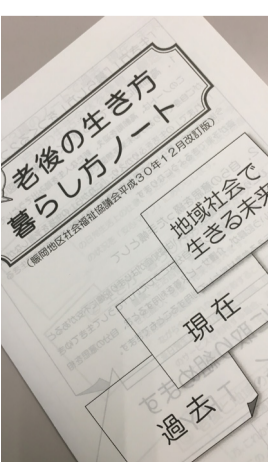
「じぶんの町を良くするしくみ。」をテーマに今年度も赤い羽根共同募金運動が10月1日から全国一斉に実施されます。賑岡地区においても毎年、各世帯の戸別募金や事業所からの大口募金等のご協力をいただいております。また、地区内の事業所等に募金箱を設置させていただいております。

赤い羽根共同募金で集められたお金は地域福祉を支える活動に使われ、大月市ではふれあいいきいきサロンへの助成事業や老人憩いの家の備品整備及び修繕事業、ボランティア育成事業、友愛訪問事業などに使われています。賑岡地区内でもふれあいいきいきサロンや老人憩いの家の整備に使われています。「赤い羽根共同募金」のステッカーや看板が目印になっています。



「私の老後の生き方暮らし方ノート」に取り組んでみませんか？

「私の老後の生き方暮らし方ノート」は、自分の老後をどこでどのように生活したいか、自分のこれまでの人生を振り返りながら自ら作り上げる未来予想図です。全国社会福祉協議会で作成したものを賑岡地区向けに改訂したもので、誰でも気軽に取り組める内容となっています。老後という高齢者のイメージがありますが、若い方にも取り組んでいただくこと



で、自分の将来設計のきっかけとして「自分には将来どんな助けが必要となるか」また「自分にはどんな活動が出来るか」など考えて、将来の礎となればと思います。最大のテーマでもある「その人らしい生活を人生の最期まで」を実現するためまずは気軽に取り組んでみませんか？

平成30年度 賑岡地区社会福祉協議会事業報告・決算報告

平成30年	4月28日	常任理事会
	5月12日	第1回役員会
	5月中旬	いきいきサロンへの助成金
	7月21日	大月市地域福祉活動計画並びに賑岡地区住民福祉活動計画に関する説明会
	8月24日	常任理事会
	9月1日	広報誌「にぎおかの住民ふくし」第13号発行
	9月2日	上畑倉区防災訓練において地域見守りマップ実施
	9月9日	岩殿区防災訓練における講師(伊良原防災会田中氏)コーディネート
	9月8日	第2回役員会
	9月中旬	敬老祝い金配布
	9月22日	ご近所たすけあいメッセージボード(福祉工房秋祭り)
	10月20日	大つきふれあいフェスティバル
	10月20日	真木・大月・賑岡3地区社協打ち合わせ(箭子会長)
	10月21日	賑岡町民運動会
	10月26日	大月東小学校、大月・真木地区社協との協働作業(福祉活動啓発等を目的とした小学生メッセージ入れプランターづくり)
11月18日	神倉区成人学級へ市社協より講師(市社協山崎氏)派遣	
11月12日	神奈川県小田原市社会福祉協議会蘇我地区視察研修	
11月~12月	共同募金事業所訪問	
11月25日	大月市地域福祉推進大会	
12月1日	常任理事会・第3回役員会	
12月8~9日	大月市ふれあい福祉バザーへ協力	
平成31年	2月2日	第1回賑岡地区社協研修会(私の老後の生き方暮らし方ノート)
	2月23日	第4回役員会
	4月1日	広報誌「にぎおかの住民ふくし」第14号発行
その他の事業	【買い物行楽事業】各月1回(計12回実施)	
	【ふれあいいきいきサロン】6か所において概ね月に1~2回実施	

収入の部

項目	30年度決算額
社協会費(市社協、賑岡地区社協)	661,700
市社協補助金	100,000
赤い羽根共同募金(世帯募金、企業)	722,542
ふれあいバザー配分金	16,650
共同募金配分金	200,000
その他の収入	17,604
前年度繰越金	306,258
収入合計	2,024,754

支出の部

項目	30年度決算額
市社会福祉協議会費	509,000
事務費(会議費並びに消耗品等)	21,647
事業費(あんしんカード、研修会、広報誌、敬老祝等)	172,799
赤い羽根共同募金(山梨県共同募金会へ)	742,542
助成金(いきいきサロン)	30,000
共同募金配分金	200,000
その他の支出	65,000
支出合計	1,740,988

※収入支出差引差額の283,766円は平成31年度へ繰越



ご近所たすけあいメッセージボード



小学校等との交流活動(プランターづくり)

社協会費について

社会福祉協議会では、誰もが安心して暮らしていける地域を目指して、地域住民主体の活動の実現と円滑な事業、サービスの推進のために、住民の皆さまに会員として、会費を納入していただいております。

賑岡地区社協においては、住民の皆さまより一世帯当たり650円の会費をいただいております。納付していただいた会費のうち500円は市社協の会費として納付し、市社協の運営費や地域福祉に関すること等、事業の推進のため

め有効に使っていただきました。残りの150円は賑岡地区社協の行う敬老祝い金や会議の事務費、いきいきサロン活動費等、有効に使わせていただきます。

毎年、多くの地域住民のご理解とご協力をいただいております。深く感謝申し上げます。平成31年度も地域福祉活動充実のため昨年度同様、皆様にご協力をお願いいたします。

※会費は区長さんや自治会長さん方にご協力いただき、納入をお願いしております。なお、区費等から納入していただいている区や自治会もあります。

賑岡地区社会福祉協議会は、大月市社会福祉協議会および各種社会福祉団体とともに地域福祉(すべての住民による福祉活動)を推進します。

平成31年度 賑岡地区社会福祉協議会事業計画の概要

●具体的な取り組み計画

1. 「私の老後の生き方暮らし方ノート」の推進と定着
2. 地域見守りマップ(ささえあいマップ)の推進
3. 地域における孤立や孤独死への対応や、認知症高齢者、障がい者などの要支援者への見守り活動に関する取り組みの検討
4. 広報活動(広報誌、啓発用ポスター、ご近所たすけあいメッセージボード)
5. ふれあいいきいきサロンへの助成と支援
6. 買い物弱者への支援(概ね月一回を予定)
7. 高齢者への敬老祝い金支給
8. 小学校や近隣地区社協との協働
9. あいさつ運動の推奨
10. ボランティア活動の推進
11. 住民福祉懇談会の実施(市社協)
12. 各種福祉活動への参加と協力

第1回賑岡地区社協研修会を開催しました

7月27日(土)、大月市総合福祉センター6階において第1回賑岡地区社会福祉協議会研修会を開催しました。当日は区役員、民生委員児童委員、公民館関係、老人クラブ関係、ボランティア関係、消防団関係など約60名もの多くの方に参加していただきました。

「みんなにとつての身近な福祉を考えよう!」をテーマにグループワークを通して自分たちの地域のこと、自分たちに出来るような福祉活動について考えていただきました。

自分が年老いたときや病気やけがで生活に支障がでてしまったとき、子育てや介護の悩みなどを相談したいとき、地域の中でも人それぞれ、様々な悩みを抱えていると思います。そんな時でも気軽に相談でき、住み慣れた賑岡町で自分らしい生活を継続するにはどうすればよいか?。近所付き合いが希薄になってきている現代だからこそ、近所付き合いの重要性を再認識して支え合い、助け合いの関係づくりが大切になります。

退任あつち

平成29・30年度 会長 箭子 照代司

あつちという間に二年間が過ぎてしまいました。歴代会長や地域の皆様のご努力によって築かれた先駆的な活動をなお一層発展させることが出来たとはいい難い思いもしております。

その一方、賑岡地区社協が行う、恒例の年二回の研修会・懇談会の行事には、地域の役員さんをはじめ消防団の皆様など毎回60名以上の方々が参加され、社協の層の厚さと熱意・力強さを感じました。この中で「賑岡地区住民福祉活動計画(平成30年~令和4年)」の策定など多くの皆様の意向を反映することも出来ました。この行事が、年度が替わり役員さんも変わる環境で、多くの方々

が社協にかかわりを持っていただけたと思います。この活動が末永く続くことを念じています。



識して支え合い、助け合いの関係づくりが大切になります。今回の研修会では世代の違いや所属の違う方たちが共通の話題で意見を出し合い、どうすれば自分たちの地域が良くなるか、どんな活動が出来るか等、活発な意見交換がなされていきました。このような話し合いを繰り返し行いながら、自分たちが出来ることを少しずつ実施していく事でつながりが強固になり、生活しやすいより良い地域が育まれることでしょう